

令和5年度 法人本部 事業計画

◎基本方針

新型コロナウイルスの感染拡大が始まって4年目を迎え、令和5年(2023年)5月にも新型コロナウイルス感染症は、感染症予防法における「5類相当」へ変更することが発表されるなど、コロナと共存するいわゆる「ウィズコロナ」の方向に進んで行くものと思われる。マスクの着用も緩和され、個人の判断にゆだねると言われているが、基礎疾患のある方も利用されている事業所を持つ育成会としては、利用者の安全を第一に考え、今後もしばらくは感染状況を見ながら事業を展開していかねばならないと考えている。

運動体においては、昨年度後半から少しずつ集まる機会も増え、研修会も3回行うことができた。

昨年8月の定期大会では対面と録画によるYouTube配信も併用して開催することで、会員以外の方にも育成会を知っていただくきっかけにはなったが、今後も、定期大会の在り方も含め開催方法や内容なども検討する必要があると考える。

コロナ禍にあって、会員同士が顔を合わせ、世間話をしながら悩みを共有したり、その解決の糸口を見つけたりしていくことこそが育成会活動の原点だと、改めて感じている。今年も新型コロナウイルスの感染状況を見ながらではあるが、できるだけ集まれる機会を増やし、会員一人一人の悩みを共有し、それを大きな声にして知的障がい者やその家族の思いを世の中に発信していきたいと思っている。

事業体においては、令和3年策定の「中長期ビジョン」の柱の一つとして掲げた日中サービス支援型のグループホームの実現について、本年1月末、しょうぶの里南側の土地を取得したことで実現に向けて大きな一歩を踏み出すことができた。

しかしながら、コロナ禍でこの3年間、どの事業所も収益が悪化し、令和4年度は法人の事業所全体でも赤字となった。法人運営費や他の事業所の赤字補填の繰入れなどのため、しょうぶの里では、施設改修の積立ができないだけでなく積立を取り崩さざるを得ない状況となっている。さらに、第二ぎんなん作業所の老朽化も深刻だが資金不足のため新築は先延ばしになっており、グループホーム建設も含めた莫大な資金の調達が大きな課題となっている。

【重点課題】

1. 中長期プランを基にした実現に向けた取り組み

- (1) SNS を活用した育成会活動発信の拡大
- (2) 次世代を担う職員の育成のための研修や人事交流の実施
- (3) 日中サービス支援型グループホームの研究、検討（継続）
- (4) 障がい児やその家族を支える事業の検討（継続）

2. 育成会活動の課題と活性化に向けた具体的方策の実行

- (1) 集合式研修とオンライン研修を合体させた研修
 - ① 学齢期世代の親御さん向け
 - ・療育懇談会、学校卒業後の将来の見える研修会の継続・拡大
 - ・Twitter や Facebook、LINE などの SNS を使った個別相談会の実施
 - ② 高齢親子向け
 - ・昨年度に引き続き、親亡き後を親あるうちに考えるための研修会の開催
 - ③ 本人向け
 - ・本人活動『つなごう会』の実施と本人の活躍の場の拡大の検証
 - ④ 会員のための福利厚生としての育成会の保険の情報提供
- (2) 家族や本人を支えるための活動の充実（継続）
 - ・会員対応を迅速に行うためのネットワークの整備
 - ・育成会活動の協力者となる人材の発掘
 - ・行政、教育機関との意見交換会を通じて信頼強化、要望実現に向けた取り組み
 - ・月例座談会「先輩教えて(学校部)」 「ちょっと聞いてよ(成人部)」のより参加しやすい実施方法の検討及び出張型座談会の計画、実施

3. 育成会活動の理解拡大・情報発信

- ・知的障がいを知ってもらうための疑似体験ワークショップの開催
- ・全国育成会機関誌「手つなぐ」の会員への購読推進と活用の取り組み
- ・市育成会広報紙「くまもと手をつなぐ」の発刊（3回）、各種情報の提供
- ・ホームページや SNS を活用した情報発信と充実

4. 利用者を支える事業所職員を支える

- ・職員全体研修会（年1回）と昨年度よりスタートさせた「階層別研修」の充実
- ・法人内・外の事業所間での職員の体験人事交流等の実施
- ・人事異動の実施